

避難訓練実施計画

- 1 目的 ・大規模地震および津波に対する避難の基本的行動を身に付ける。
・避難訓練を通して、防災に関する意識を高め、安全かつ速やかに行動する能力を育てるとともに、身の安全を図る心構えを養う。
- 2 訓練実施日 平成〇年〇月〇日 (〇)
- 3 地震の想定 13時45分、熊野灘を震源とするマグニチュード9.0の大地震が発生した。
県下では、震度7の強震動が観測され、15分後には大津波警報(10m超の津波が到達する)発表。
- 4 避難訓練の方法 〇:〇~〇:〇
防災ノートP3~4を利用して、地震の時の対応の確認、避難時の注意点や経路の確認等の学級指導。
 - (1) 緊急地震速報を利用して避難行動を開始する。13:45
あと20秒で地震が発生します。(訓練モードで行なう)
すばやく危険な場所から離れ、安全な姿勢を取りなさい。
(放送の指示に従って、各自のいる場所を考えて、危険な場所から離れ、それぞれの身の安全を確保する)
地震が終わりました。震度7程度の大きな地震が起きた模様です。 13:46
慌てず、静かに、速やかに「〇〇」方面に避難して下さい。
(窓に近い人は、窓を開ける)
(「押さない」「走らない」「しゃべらない」「戻らない」の四原則を守り、避難経路を通じて速やかに避難する。※まず命を守ることを最優先に)
 - (2) 避難、集合する(〇〇~) 目標タイム〇〇分
・人員点呼、確認、報告
(級長、副級長は整列させて、人員点呼、確認し担任に報告する)
(担任は教頭に報告し、教頭は、全体を把握して校長に報告する)
※〇年 〇名 出席者〇名 〇名(全員)おります。
 - (3) 避難行動についての振り返り
・全体の感想を述べる(学校長講評)。
・地震、津波の恐ろしさを確認するとともに、避難場所、避難ルートについても再確認し、防災への意識を高めさせる。
 - (4) 防災体制
・生徒の安全確認をすると同時に、必要に応じて教育委員会に報告する。【校長、教頭】
(負傷者、事故があれば、学校のマニュアルにより行動する【全職員】)
・速やかに校舎の被害状況を確認する。【〇〇】
・状況により、通学路の安全を確認する。(津波の情報に併せて行動する)【〇〇】
・避難誘導し、生徒の掌握、指導を行う。【その他の教員、職員】
・上記の情報をまとめ、教育委員会に連絡する。【校長、教頭】

(5) その他

- 基本的には生徒玄関を通り、靴を履き替えて行く
- 教頭は、残っている生徒がいないことを確認した上で、火気や電源の処置を確実に起こさない、火災予防を行なって学校を離れる。
- 火災の発生、校舎の倒壊や壁の崩落、窓ガラスの損壊等による負傷者や避難経路の変更などが考えられるが、その状況に応じて安全確保に努める。